

# 華鳥風月



嗚呼 華のように鮮やか 啊 像花那樣鮮豔 颯

に さあ

嗚呼 鳥のように優雅に

嗚呼 風まかせも心地良

い さあ

嗚呼 月明かり照らされ

て

啊 像鳥那樣優雅

啊 憑風拂面也很舒服

颯

啊 明月光輝照耀世間

正しさなんてもの

人の物指しによって変わる

この世界 不変あるとするならば

華鳥風月 厳かで美しいもの

所謂的正确與否

會根據人的判斷而改變

這個世間 要說不變的事物 唯有

花鳥風月 這些莊嚴而美麗的事物

後悔をして 学び また歩もう

二度と過ち 繰り返さぬように

歴史とは 変わらぬ感情が

廻り廻って 傷つけて和解された

世界の成長

經歷過後悔 學會教訓

繼續前行

不要讓錯誤再一次重複發生

所謂的历史 也就是不變的感情

峯迴路轉 相互中傷又和解

也是世界的成長

正しさなんてもの  
大人にも分からない幻想

この世界 不変あるとす  
るならば  
華鳥風月 穏やかで懐か  
しきもの

---

汚れぬことが  
正義なのだろうか？  
過ちの中にあるけじめに

魅せられ知った 穢れを  
恐れぬ愛も  
正しさと言うこと

---

形無いからこそ  
感じようと思える  
それも 生けるものすべ  
て内側に持つ  
華鳥風月 測れないから  
意味がある  
だからこそ 愛を彷徨う

---

所謂的正確與否  
更多是連大人都無法理解  
的幻想

在這世間 要說不變的事  
物 唯有  
花鳥風月 這些穩重而令  
人懷念的事物

不同流合污  
就能算是正義了麼？  
一次次犯錯中 尋找每次  
的區別

被魅惑後又知情 卻還無  
懼於污點的愛  
也能說是正確的吧

---

正因為沒有形狀  
所以纔更想去感受到  
這一點也 讓它存在的原  
因全都是發自內心  
花鳥風月 因為無法測量  
所以纔有意義  
正因如此 纔會在愛中彷  
徨

---

悲しめる心も	讓人悲傷的心也
怒れる優しささえも	就連讓人憤怒的溫柔也
きっと 生けるものすべ	一定是 讓它存在的原因
て内側に持つ	全都是發自內心
華鳥風月 何処までも美	花鳥風月 無論何處 都
しくなれ	美麗動人
いつまでも美しくあれ	無論何時 都美麗動人

---

《花鳥風月》，算是比較著名的東方改編曲了，因為作為《幻想万華鏡》的片頭片尾曲，配上了動畫的片段，算是對整個東方正作故事中描繪事物的總結。就像我第一篇翻譯的歌詞《童遊》因為是對神主ZUN自己的主題曲《童祭》的重新譜詞而有了總起的性質，這篇《花鳥風月》也因為用在《幻想万華鏡》而有了總結的性質。

---

あゝ	はな	あざ	
嗚呼	華	のように 鮮	やかに さあ
あゝ	とり	ゆうが	
嗚呼	鳥	のように 優雅	に
あゝ	かぜ	こころ	よい
嗚呼	風	まかせも 心地	良い さあ
あゝ	つき	あ	て
嗚呼	月	明かり	照らされて

---

ただ  
正しさなんてもの  
ひと 物の さ か  
人の物指しによって変わる

この<sup>せかい</sup>世界 不<sup>ふ</sup>変<sup>へん</sup> あるとするならば  
かちょうふうげつ おごそ うつく  
華鳥風月 厳 かで 美 しいもの

---

こうかい まな あゆ  
後悔<sup>こうかい</sup> をして 学<sup>まな</sup> び また 歩<sup>あゆ</sup> もう  
に ど あやま く かえ  
二<sup>に</sup>度<sup>ど</sup> と 過<sup>あやま</sup> ち 繰<sup>く</sup> り 返<sup>かえ</sup> さぬように  
れきし か かんじょう  
歴<sup>れきし</sup>史<sup>し</sup> とは 変<sup>か</sup> わらぬ 感<sup>かんじょう</sup> 情<sup>じょう</sup> が  
めぐ めぐ きず わかい  
廻<sup>めぐ</sup> り 廻<sup>めぐ</sup> って 傷<sup>きず</sup> つけて 和<sup>わかい</sup> 解<sup>かい</sup> された  
せかい せいちょう  
世<sup>せかい</sup> 界<sup>かい</sup> の 成<sup>せい</sup> 長<sup>ちょう</sup>

---

ただ  
正<sup>ただ</sup> しさなんてもの  
おとな わ げんそう  
大<sup>おとな</sup> 人<sup>にん</sup> にも 分<sup>わ</sup> からない 幻<sup>げん</sup> 想<sup>そう</sup>  
せかい ふへん  
この<sup>せかい</sup> 世界 不<sup>ふ</sup> 変<sup>へん</sup> あるとするならば  
かちょうふうげつ おだ なつ  
華<sup>か</sup> 鳥<sup>ちょう</sup> 風<sup>ふう</sup> 月<sup>げつ</sup> 穏<sup>おだ</sup> やかで 懐<sup>なつ</sup> かしきもの

---

けが  
汚<sup>けが</sup> れぬことが  
せいぎ  
正<sup>せいぎ</sup> 義<sup>ぎ</sup> なのだろうか？  
あやま なか  
過<sup>あやま</sup> ちの 中<sup>なか</sup> にある けじめに  
み し けが おそ あい  
魅<sup>み</sup> せられ 知<sup>し</sup> った 穢<sup>けが</sup> れを 恐<sup>おそ</sup> れぬ 愛<sup>あい</sup> も  
ただ い  
正<sup>ただ</sup> しさと 言<sup>い</sup> うこと

---

かたち な  
形 無 いからこそ

かん おも  
感 じようと 思 える

それも い 生 けるものすべて うちがわ も 内側 に 持 つ

かちょうふうげつ はか いみ  
華鳥風月 測 れないから 意味 がある

だからこそ あい ほうこう  
愛 を 彷徨 う

---

かな こころ  
悲 しめる 心 も

おこ やさ  
怒 れる 優 しささえも

きっと い 生 けるものすべて うちがわ も 内側 に 持 つ

かちょうふうげつ どこ うつく  
華鳥風月 何処 までも 美 しくなれ

いつまでも うつく  
美 しくあれ

---



巡って廻って (Pixiv 72616493)